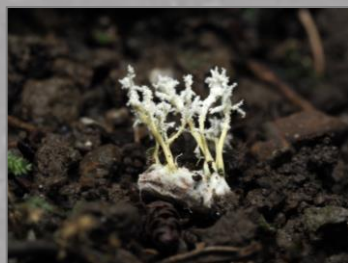


去年のカメムシタケ発見により、僕の中で^{とうちゅうかそう}冬虫夏草の扉が開かれた。鉄は熱いうちに打て! ということで、熱が冷めないうちに今年も冬虫夏草探しに出かけた。高尾山では、見てみたかった「**セミの幼虫から生えるタイプ**」を見つけることができた! その他にも色々見つけられるようになってきて、世界が広がっていく感覚が楽しい。

せっかくだから今年見つけた冬虫夏草を1年生の授業で回してみた。「きも…」と気味悪がる生徒も多いが(たぶんそれが“一般的な”反応)、すげえ!! と興奮し出す者も結構いるのは、さすが理系高校だなあと思う(普通高校だったらばくも回すのを躊躇ったと思う)。そして自然な流れで、**冬虫夏草は食えるのか**という話題になる。

「虫の体の中まで菌糸に置き換わってるから、きっと虫の味はしなくてキノコの味だと思う」そんなことを言うと、「**うおー食ってみてえ…!**」とカズマの目が輝き出した。カズマは会うたびに「カブトムシを食べてみたけど超不味かったんすよ」とかそんな話ばかりしてくるゲテモノ喰いだ。

中国では薬膳料理や漢方として**冬虫夏草が食用されている**。効用の真否は分からないが、奇妙な見た目や希少さから、**不老長寿の秘薬**と信じられたりもしているそう。ただし、これはコウモリガという蛾の一種から生える**特定の冬虫夏草**を用いている。高尾山などに生えている冬虫夏草を何でもかんでも食べているわけではないので、食べてみたいと思った人はご注意ください。



ハナサナギタケ (左と右は別個体) 8月初旬 高尾山
地中の蛾のサナギから生える冬虫夏草。この時期の高尾山では林道で最も普通に見られた。目が慣れてきたら、そこかしこから多数見つけた。



謎の冬虫夏草 8月初旬 高尾山
冬虫夏草であることは間違いなさそうだが、図鑑を見ても分からなかった。何から生えているかもよく分からない。イラガの繭だろうか。だとするとモンチャクイラガタケが近そうだが、なんか違う。



オサムシタケ 7月初旬 代々木公園
オサムシという甲虫の幼虫から生える冬虫夏草。本当は成虫から生えているものを見たかったが、見つからなかった。夏の公園は蚊が多くて、冬虫夏草探しはかなりしんどい。



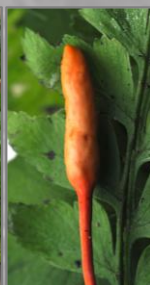
ツクツクボウシタケ (発見時)
セミの幼虫の部分は地中に埋まっていて、キノコ(子実体)だけが地表に出ている。だから見つけるのが難しい。



ツクツクボウシタケ (土をどかした状態)
セミの幼虫部分は菌糸に覆われていてほとんど見えなかった。



ツクツクボウシタケ (菌糸を剥いだ状態) 8月初旬 高尾山
左の写真の状態から白い菌糸を剥いでみたら、セミ(ツクツクボウシ)の幼虫の姿が見えた。



カメムシタケ (成熟)
去年紹介したカメムシタケもまた見つかった。去年のものは未成熟だったが、この個体は子実体の先端が膨らんだ成熟タイプだ。この膨らんだ部分から胞子を飛ばす。ホストはこの場合、クサギカメムシ。
8月初旬 高尾山